

1. 一般財団法人津山慈風会 津山中央病院の概要

津山中央病院は、一般財団法人津山慈風会が経営にあたり、昭和29年7月に津山市二階町に誕生して以来、岡山県北部唯一の総合病院として、また地域の基幹病院として多くの住民の命を預かってまいりました。

津山慈風会は、平成9年12月1日厚生省（当時）より、国立療養所津山病院の経営移譲を受け、一部施設は取り壊して新病院を建設、一部は改修工事を施工、平成11年12月に竣工し、病院名も、川崎の新病院を津山中央病院へ、二階町を津山中央記念病院（90床：現在は81床）へ改名し、大半の機能を移転（529床：現在は535床）しました。

救命救急センターの運営等により診療圏も拡大し、二次医療圏（津山・英田）21万にとどまらず、真庭市等の三次医療圏や兵庫県佐用町や穴栗市からも救急車による搬入が頻繁に行われています。

病院に併設された救命救急センター（30床）は、岡山県では岡山赤十字病院・川崎医科大学附属病院に次いで三つ目のセンターとして誕生しました。

（現在は、平成24年4月から岡山大学病院が高度救命救急センターとして、平成25年4月より倉敷中央病院が救命救急センターとして活動しています。）

今まで県南へ1時間以上かかって搬送していた心筋梗塞、脳卒中、頭部外傷や重篤救急患者の治療に24時間365日あたっています。当院敷地内のヘリポートでは川崎医科大学高度救命救急センタードクターヘリにより、事故現場等からのヘリ搬送も受け入れており、ヘリによる患者の受入及び搬送は14年間で126回（平成25年8月28日現在）を数えます。また、1次救急・2次救急へも対応しており平成24年度の救急外来受診者は26,199人と多くの方が受診しています。救急車も4,824台（1日平均13.2台）の受入をしています。小児救急医療にも力を入れており、平成20年度から小児救急拠点病院に指定されました。平成18年4月からは、地域の医療機関（9施設）の小児科医の協力により、地域連携小児救急診療を実施し、24時間365日小児救急を実施しています。

災害拠点病院（地域災害医療センター）として5つの医療救護班とは別に、DMATも4班登録しています。平成23年3月11日に発生した未曾有の東日本大震災にあたっては、3月11日より待機し岡山県の指令で3月12日4時にDMAT1班が出動、伊丹空港から自衛隊機で岩手県花巻空港に飛び花巻空港SCUで超急性期の医療救護活動や広域搬送活動を実施し3月14日に帰院しました。また、3月28日から3月31日、4月11日から4月14日、4月25日から4月28日には医療救護班3班派遣し、岩手県大船渡市公民館で医療救護活動を実施しました。原子力発電所事故の影響で福島県には放射線技師を派遣し放射線線量測定を実施、病院では原子力災害初期対応病院として関東在住で不安となった方の線量測定も実施しました。

基幹病院として、救急以外の急性期医療にも力を入れており、胃がんに対する手術数や、内視鏡件数（10,510件）は岡山県内でも上位にランクし、リニアック（放射線治療装置）の導入や3テスラMRIの導入で設備的にも県南の大病院に劣らないものになってきました。平成17年1月には岡山県で4番目の「地域がん診療拠点病院」にも指定され、平成18年4月よりは「地域がん診療

連携拠点病院」として他のがん拠点病院との連携を図っています。平成25年4月には同時に20人まで対応可能な化学療法センターを整備いたしました。

今後は予防医療も重要なポイントとなるため、健康管理センターの充実も図っています。PET/CTの導入やデジタルマンモグラフィの導入により、がんの早期発見にも力を注いでおり、平成20年度からは保健指導もはじめました。医療情報プラザという患者様、ご家族様、地域住民の方への図書室を整備し、慈風会記念ホール（154席）においては、当院職員の研修はもちろん、地域の医療機関従事者への研修や市民公開講座等にも力を入れています。

当院はIT化を進めており、平成11年の新病院開院直後から電子カルテシステムを導入し、効率的な医療を目指しています。当初は混乱もありましたが、丸13年を経過した現在は、院内の効率的な運用や統計処理、また患者へのインフォームドコンセント等に活用しています。医療材料の管理にもSPDシステムを採用し、2次元バーコードを利用して在庫、発注、医事情報の管理を行っています。

教育的な要素も多く兼ね備えた医療機関として、医師臨床研修をはじめ、附属の津山中央看護専門学校の実習はもとより多くの看護学生や他のコメディカル学生実習の受け入れ等を実施しており、また、救急救命士の気管挿管や薬剤投与実習、地域新人看護師への教育など地域医療従事者への教育や中学生・高校生職場体験などにより将来医療従事者を目指そうとしている青少年への教育も実施しています。平成23年4月には医療研修センターも完成し、より多彩な教育が可能となりました。

今日の医療において不可欠な地域連携においては、平成23年7月地域医療支援病院の認可を受け、岡山県北の地域医療の向上に寄与しています。また、平成21年度からはへき地医療拠点病院に指定されるなど民間ではありながら公的色彩の強い医療機関でもあります。そのため、第2種社会福祉事業も展開しており、生活困窮者への減額診療や生活保護世帯への医療など、社会福祉への貢献も実施しています。

医療安全は、現在最も注目をされている分野であり当院も危機管理に関しては、医療安全管理室を中心として安全の確保に努めています。リストバンドのバーコードと点滴・輸血、さらには施行者の名札とのマッチングを電子カルテに記録するなど二重、三重のチェックに努めています。

院内感染防止対策としてソフト酸性水やアルコールを利用し、高い成果をあげています。

第三者の評価にも取り組み、平成14年には日本医療機能評価機構による病院機能評価の認証取得（平成24年ver. 6で更新）、平成16年にはISO14001（環境）の認証取得（平成19年、22年更新）をしました。

平成25年7月26日の記者会見において、平成28年3月中国四国地方初となる岡山大学・津山中央病院共同運用／がん陽子線治療センターのオープンを目指し連携構想が発表されました。新病棟やロボット手術、ハイブリッド手術可能なOPB室の拡充等機能強化する予定です。

津山中央記念病院、津山中央クリニック、津山中央訪問看護ステーション、津山中央居宅介護支援事業所、アーバンライフ二階町（有料老人ホーム）、ナイスデイ二階町（小規模多機能施設）、フィットネス&スパ カルヴァータを併設し

ており、保健・医療・福祉の拠点としての使命をまっとうすべく、日夜努力を続けています。

1) 開設者 一般財団法人津山慈風会 理事長 浮田 芳典

2) 病院名 津山中央病院

3) 代表者 病院長 藤木 茂篤

4) 所在地 〒708-0841
岡山県津山市川崎1756番地
TEL 0868-21-8111

5) 病床数 535床

一般病床 467床 (NICU機能6床含む)

救命救急センター 30床 (ICU4床、CCU2床、SCU2床、HCU22床)

結核病床 30床

感染症病床 8床

6) 病院の沿革

昭和29年 7月 津山中央病院(二階町)開院

平成 1年 4月 院内学級開校(長期入院児童)

平成 9年 1月 災害拠点病院(地域災害医療センター)指定

平成 9年 12月 国立療養所津山病院の経営移譲を受け川崎に東分院を開院

平成10年 4月 へき地医療支援病院指定

平成11年 4月 第二種感染症指定医療機関指定

平成11年 12月 東分院から津山中央病院へ名称変更

二階町の機能を合併し、529床に増床

(一般369床、救命救急20床、療養型90床、結核50床)、電子カルテスタート

平成12年 2月 救命救急センターとして厚生省認可、
県より設置要請

平成12年 3月 総病床数は525床となる

平成14年 11月 病院機能評価認定取得

平成15年 2月 エイズ治療拠点病院指定

平成15年 4月 臨床研修指定病院となる

平成16年 5月 健康管理センターオープン

平成16年 12月 ISO14001認定取得

平成17年 1月 地域がん診療拠点病院指定

平成17年 2月 療養病床を一般病床に変更、

平成17年 4月 N2病棟を亜急性期病床に変更

平成18年 4月 地域がん診療連携拠点病院

地域連携小児救急診療開始

平成20年 10月 小児救急拠点病院指定

平成21年	4月	へき地医療拠点病院指定
平成23年	4月	医療研修センターオープン
平成23年	7月	地域医療支援病院認可
平成24年	2月	救命救急センターが30床に増床
平成24年	9月	外来棟増築
平成25年	4月	化学療法センターオープン
平成25年	6月	重症心身障害児レスパイト入院開始

7) 津山中央病院の理念、職員行動規範、基本方針

理念

私たち津山慈風会は 地域の皆さんに やさしく寄り添います

職員行動規範

私たちは、患者の満足、地域の満足、職員の満足を追求します

- ①患者満足：患者の人権を尊重し、医療の質を高め納得と同意に基づく医療を提供します
- ②地域満足：地域医療支援病院として、密な連携を図り、地域医療・福祉に貢献します
- ③職員満足：高い志を持って医療現場に臨み、日々業務を見直し、リスク管理のできる医療のプロとして研鑽とチャレンジを惜しみません

基本方針

- ① お断りしない救急診療に努める
- ② 最先端の医療を提供する
- ③ 地域医療機関との連携を強化する
- ④ 地域に貢献する活動を推進する
- ⑤ 教育、人材育成に傾注する
- ⑥ 健全な経営に努める

8) 病院の規模

- ①敷地面積 56,007.36㎡
- ②延床面積 32,556.08㎡

9) 標榜診療科（23診療科）

内科、呼吸器科、循環器科、消化器内科、小児科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、気管食道科、形成外科、眼科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科

10) 平成25年度患者数

	延べ患者数	一日平均
入院患者数	167,172 人	458 人
外来患者数	257,023 人	945 人

１１）スタッフ数（平成２６年４月１日現在）

医師	92人	理学療法士	18人
歯科医師	3人	作業療法士	7人
研修医	23人	言語聴覚士	2人
薬剤師	23人	視能訓練士	3人
リスクマネージャー	1人	歯科技工士	1人
助産師	13人	歯科衛生士	5人
保健師	10人	管理栄養士	6人
看護師	461人	社会福祉士	4人
准看護師	23人	臨床心理士	1人
介護福祉士	7人	医療技術助手	10人
診療放射線技師	25人	医療アシスタントⅠ	13人
臨床検査技師	24人	医療アシスタントⅡ	43人
臨床工学士	11人	事務職員等	49人
診療情報管理士	9人	合 計	887人

１２）指定医療機関

地域医療	地域医療支援病院
救急医療	救命救急センター
	二次救急輪番制指定医療機関
	小児救急医療支援事業指定病院
	小児救急医療拠点病院
災害医療	地域災害医療センター（災害拠点病院）
	原子力防災初期被ばく医療機関
臓器提供	脳死臓器移植における臓器提供病院
	開眼医療指定医療機関（眼球銀行）
感染症	第二種感染症指定医療機関
	SARS協力医療機関
	SARS初期対応協力医療機関
研修医	医師臨床研修指定病院
	歯科医師臨床研修指定病院（岡大協力病院）
がん診療	地域がん診療連携拠点病院
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設
エイズ	エイズ治療拠点病院
肝炎	肝炎二次専門医療機関
周産期	地域周産期医療センター
	津山中央福祉産院
	優生保護法医療指定機関
	へき地医療拠点病院
検診	胃精密検診委託機関
	乳がん精密検診機関
	肺がん精密検診機関
保険	生活保護指定医療機関
	更正医療診療指定機関
	養育医療診療指定機関
	結核予防法指定医療機関
	原子爆弾被爆者精密検診委託機関
	労災保険指定医療機関
	国家公務員災害補償指定医療機関
	船員法指定医療機関

1 3) 診療圏域

津山市、美作市、苫田郡、久米郡、英田郡、勝田郡、真庭市等

二次医療圏（津山・英田医療圏：21万人）

三次医療圏（津山・英田、真庭、阿新：30万人＋兵庫県佐用町・穴栗市）

1 4) 主な医療機器

・PET／CT	1台
・リニアック	1台
・ガンマカメラ（RI）	1台
・MRI（3.0テスラ）	1台
・MRI（1.5テスラ）	1台
・マルチスライスCT（64列）	1台
・マルチスライスCT（16列）	1台
・DSA（心カテ用血管撮影装置）	1台
・DSA（頭部・胸腹部用血管撮影装置）	1台
・デジタルマンモグラフィー	1台
・マンモトーム付デジタルマンモグラフィー	1台

1 5) 手術室

- ・8室（クラス100バイオクリーンルーム1室、救急用手術室2室含む）

1 6) 主なシステム

- ・Eカルテ（電子カルテ）等

1 7) 付属施設

- ・津山中央健康管理センター
- ・医療研修センター
- ・長期入院患者院内学級（市立林田小学校・市立東中学校）
- ・院内保育所（ひまわり保育園）・備蓄倉庫（災害用）
- ・エネルギーセンター（コ・ジェネレーション） ・ヘリポート
- ・研修医、コメディカル宿舎 ・看護師宿舎 ・研修宿泊棟

1 8) 関連施設

- ・津山中央看護専門学校（隣接：定員1学年40人3年全日制）
- ・津山中央記念病院（津山市二階町71番地：病床数81床）
- ・津山中央クリニック（津山市二階町）
- ・有料老人ホームアーバンライフ二階町（津山市二階町）
- ・小規模多機能型居宅介護ナイスデイ二階町（津山市二階町）
- ・津山中央訪問看護ステーション（津山市元魚町）
- ・津山中央居宅介護支援事業所（津山市元魚町）
- ・フィットネス&スパ CARVATA（カルヴァータ）（隣接）

1 9) URL <http://www.tch.or.jp/>